

## 目 次

訳者まえがき

まえがき

文献一覧

論理学とその使用法への誘い .....	1
<b>A</b> アヒル (Ente) から概念へ：論理学の対象 .....	4
I 「アヒル」とアヒルの概念：定義	6
II アヒル性とヴァルプルガという名のアヒル：外延と内包	12
III これはアヒルではない：矛盾と同一性	17
<b>B</b> およそアヒルとなりうるもの：命題 .....	24
I 全ての私のアヒル——あるアヒルは運に恵まれている ——1羽だけもありうる：質と量	29
II 相反するアヒル：特殊な命題	33
1 もしアヒルが冬の夜に…：仮言命題	33
2 ガーガー鳴くか、またはガーガー鳴かない：選言命題	34
3 アヒルではないかもしれない：蓋然命題	35
4 唯一の本物のアヒル：トートロジー、法則、公理、明証	40
<b>C</b> アヒル相互の結びつき：命題相互の関係 .....	44
I アヒルの二乗：量的関係	44
II 基本となるもの：推論の法則	52
1 全てのアヒルは黄色い…：三段論法	53
2 くちばしから尾まで：三段論法の形式	56

目 次

3	あるアヒルは法律家だ…：推論方式	57
4	それは真だった！：条件推論	60
	a) まさかの時のスペイン宗教裁判：条件命題	63
	b) なぜアヒルはよちよち歩くのか？：因果性	67
<b>D</b>	<b>私に「アヒル」と言うな！：義務論理</b>	75
	I ～しなさい！：規範とは何か？	76
	II そもそもあなたはここで何をすべきか？：規範と行為の 関係	78
	III これをしてもよいのか？：義務論理的六角形	79
	IV これをしなければならないか？：義務論理的六角形の 関係	82
	V なぜよちよち歩くべきなのか？：義務的關係の正統化と 根拠づけ	84
	1 これはよちよち歩きである：包摂——法的三段論法	90
	2 選択の余地をもっている者は…：解釈問題	95
<b>E</b>	<b>アヒルの尾：肥溜め事例</b>	98
<b>F</b>	<b>アヒルよし、全てよし：形式的な概要</b>	105
	I 論理的正方形	105
	1 様相の形式的な定義	105
	2 關係の形式的な定義	106
	3 意 味	106
	様相論理 / 義務論理 / 三段論法	
	II 三段論法	107
	III 命題論理の真理値表	109
	IV 命題論理の重要な推論（トートロジー）	110

索 引